

ゆ〜とぴー

vol.67
2025

福祉の総合情報誌
utopie 理想をチカラに

特集

令和6年能登半島地震の被災地支援を振り返る



- ②—— 被災地支援で得た技術やノウハウを継承していくことが、次の災害に備え被災地域を支え続ける糧になる
○社会福祉法人 益城町社会福祉協議会 ○社会福祉法人 水俣市社会福祉協議会
○社会福祉法人 天草市社会福祉協議会 ○社会福祉法人 熊本県社会福祉協議会
- ⑥—— 志賀町避難所・金沢市1.5次避難所での活動
○熊本DWAT
- ⑧—— 輪島市内一般避難所での活動
○熊本DCAT
- ⑨—— 金沢市みなし仮設住宅での活動
○熊本県社会福祉士会
-
- ⑩—— 公式アカウントで情報配信中
- ⑫—— 県社協の事業案内

令和6年能登半島地震の

被災地支援を振り返る

令和6年1月1日に石川県能登地方で発生し、最大震度7を記録した「令和6年能登半島地震」。歴史ある瓦屋根の木造住宅が多い地域でもあり、住宅の倒壊や土砂崩れ等による被害は甚大で、多くの犠牲者が出ました。同年9月21日には石川県で線状降水帯が発生し、3日間降り続けた雨は河川の氾濫、浸水被害、土砂災害などさらに多くの傷痕を残しました。今回、被災地からの要請を受けて災害支援に赴き、活動を行ってきた熊本県内の社会福祉協議会、熊本DWAT、熊本DCAT、熊本県社会福祉士会に話を聞きました。それぞれの立場で感じたことや、今後に繋げる福祉的支援の役割とは。

被災地支援で得た技術やノウハウを継承していくことが、次の災害に備え被災地を支え続ける糧になる。

(左から)

益城町社会福祉協議会 在宅福祉課 コミュニティソーシャルワーカー

森 架織さん

水俣市社会福祉協議会 みなまた安心センター 係長

秋山 真輝さん

天草市社会福祉協議会 福祉のまちづくり課 主事

佐々木 健太さん

熊本県社会福祉協議会 福祉人材・研修センター 主事

田中 向日葵さん



珠洲市災害ボランティアセンターへの熊本県内市町村社協による被災地支援活動

熊本県社会福祉協議会（以下、県社協）と熊本県内市町村社協による災害ボランティアセンター（以下、災害VC）への支援は、令和6年4月12日から同年12月10日まで実施され、延べ49名が支援活動を行いました。派遣されたのは能登半島の先端に位置する珠洲市災害VC。派遣時期が異なる4名の社協職員に、当時の活動を振り返ってもらいました。

― 現地での活動について教えてください。

秋山 主な仕事は現地調査で、ニーズ調査票をもとに実際に現地へ赴き状況を確認しました。現地調査の際には地元の社協職員の方や地元ボランティアの方々が車を運転してくださり、その道中で珠洲市の現状を教えてくださいました。事前に情報は得ていたものの、現地に入ると実際の風土や道路状況など未知なことも多く地元のサポートは非常にありがたいものでした。

田中 私はオリエンテーション班と

マッチング班（以下、オリマチ班）で、ボランティアが活動に入る前のオリエンテーションとして、安全かつ円滑に活動できるよう、被災地での注意点や心構えについてアナウンスを行いました。私が派遣された時期は暑かったので、熱中症対策の声かけなどもしましたね。オリエンテーション後には、被災者からの様々な支援ニーズとボランティアの活動希望のマッチングを担いました。

佐々木 私は資材班として、ボランティアへの資材の受け渡しやボランティアバスの出迎え、軽トラの車両管理などを行いました。道路状況が悪くパンクも多かったため、タイヤ交換やオイル交換をしたり、活動終了後のトイレカーの清掃や水の補充なども資材班の仕事でした。

森 活動は現地調査でした。派遣されたのが12月だったので、ある程度復旧の目処がたった世帯からは、「自宅の解体が決まったので自宅の敷地内の小屋に荷物を移動してほしい」とか「寒いのでブルーシートをしっかりとかけてほしい」という声がありました。また、9月の水害の後だったので、地震だけのニーズとはまた違っていったと思います。





9月には記録的な大雨が降り続け豪雨災害が発生。住宅や用水路の泥のかき出しなどの支援も続いている（令和6年12月撮影）。



被災者からのニーズと災害ボランティアをマッチングし、活動へ。住宅の片付け、清掃などを丁寧に往く（令和6年5月撮影）。



倒壊した家屋にはブルーシートがかけられ、安全に配慮しながら家財の運び出し、災害こみの分別等を実施（令和6年5月撮影）。

—支援を通して感じたことは。

秋山 珠洲市社協では職員の方も被災されて、広域避難のために通勤が困難になるなど様々な理由で職員が半数ほどに減少していました。その中で災害VCを立ち上げ運営を続けていました。私が派遣された時期には、少ない職員体制の中で災害VCを運営しながら通常の社協活動に戻りつつあったのですが、外部からの支援なしには、社協や災害VCを維持することは難しいと感じました。

田中 被災地の状況は日々変化してきますので、現地ではマニュアル通りには行かないですし、運営支援において正解は無いと感じました。また、私が想像していた以上に現地では笑顔が溢れていたのが印象的でした。実際に被災地の職員の方から「支援に来てくださる他県の職員の皆さんが、明るく接してくれるのがすごく嬉しい」と声をかけていただくことも多く、運営支援として携わる私たち自身も、被災地の方々へ笑顔を届けられる存在になる必要があると感じました。

佐々木 現地に到着してすぐのオリエンテーションで言われた「ポジティブに頑張ってほしい」という言葉がすごく印象的でした。田中さんの話にも繋がりますが、「暗い気持ちでいるよりも、私たちとしては明るく接してもらった方がいい」と言っていたので、私はすごく緊張が解けて支援に入りやすかったです。

森 熊本地震の時と比べると災害VCでの運営はかなりデジタル化していると感じました。二次元コードを読み込んで受付をしたり、ICTツールを活用して最新の道路状況把握できたりと、すごく進んでいて効率が良いかったです。

—特に印象深かったことを教えてください。

秋山 これまで災害VCで行なっていたボランティアの登録を、今回石川県が統一の窓口となってい、ボランティアバスで各センターへ送迎するという形式は、とてもスムーズだったと思います。また、珠洲市災害VCは、技術系の支援団体と協働

で運営されていたので、すぐに支援団体と協議して、一般のボランティアで対応できるかの判断ができました。これまで技術系の団体は社協が運営する災害VCからは独立して活動されていることが多かったのですが、円滑な連携ができた点は非常に良かったです。

田中 私はボランティアの方と関わる機会が多かったのですが、中には熊本地震の時に熊本へ支援に来られた方も多くいらっしやって、改めて熊本県のためにもたくさんの方が支えてくださっていたこと、県をまたいで支え合うことやボランティア活動の大切さを実感することができました。私たち運営スタッフに対しても気遣って声をかけてくださる方も多く、とても励まされました。

佐々木 現地のスタッフに頼るのではなく、私たち外部から来た支援者が、「こうした方がもっと効率がいいよね」と自分たちで意見を出しやすい雰囲気だったのがとても良かったです。皆で災害VCを良くしようという雰囲気づくりやチームワークはすごく大事だなと感じました。



水俣市社協 **秋山 真輝**さん
第11クール（5/18～5/24）派遣
現地調査班担当



県社協 **田中 向日葵**さん
第15クール（6/3～6/9）派遣
オリエンテーション班・マッチング班担当



天草市社協 **佐々木 健太**さん
第24クール（7/9～7/15）派遣
資材班担当



益城町社協 **森 架織**さん
第54クール（12/4～12/10）派遣
現地調査班担当

森 私が派遣された頃は発災から11カ月が過ぎていましたが、すでに珠洲市社協の職員さんが珠洲市の様子を伝えるため県外まで講演に行かれたり、地元の小中学生へ災害学習をされたりと動かれているのに驚きましたね。

— 今回の派遣を通して課題に

感じたことはありますか？

秋山 被災地の社協は地域コミュニティを支える中核ですが、職員が半数になってしまった珠洲市社協を、今後どのように支えていくのかは大きな課題だと感じました。一方で、今回、被災地のスタッフはもちろん、派遣職員のバーンアウトやPTSD（心的外傷後ストレス障害）、体調不良に対するフォローの必要性を感じました。また、珠洲市には元々宿泊施設が少ないという背景はありましたが、初めて他県社協の派遣職員と、宿泊先で共同生活を送ることを経験しました。もちろん他県の社協職員との交流をする機会も大切ですが、日中気を張り詰めて



活動先へ出発する前のボランティアに被災状況と作業内容の詳細について説明を行うマッチング班スタッフ。



ボランティアが活動へスムーズに向かえるよう、軽トラの駐車方法や鍵の管理、タイヤのチェックなども資材班の大事な仕事。

活動し、その後も一人で休める時間がなかったことは、正直なところストレスに感じました。他の派遣職員の方々の心身のケアについても気になっていきます。

田中 個人の課題にはなりますが、引き継ぎがスムーズにできなかったことです。次のクールへの引き継ぎを行う日が土曜日でボランティアの人数がとても多かったのですが、その対応をしつつ、何度中断しながらの引き継ぎとなっていました。私たちの引き継ぎの時も同じような状況だったので、不安が多いまま初日を迎えていたこともあり、次のクールの方も不安を感じたのではないかと思います。

佐々木 資材班としては、資材が不足してしまふことが課題でした。釘などの踏み抜き防止のインソールをボランティアの方から求められることが多かったのですが、サイズの種類が少なく、女性用の小さいサイズや、男性用の大きいサイズがなくお渡しできなかったんです。初めてボランティアに来る方はお持ちじゃないこともあるので、サイズを充実させ

た方がいいなと感じました。

森 私自身、益城町での災害VCの経験をしていたので、今回現地の職員さんに迷惑をかけないように気を付けていました。

しかし、それでも迷う場面は多々あり、例えば、初めて使うICTツールの入力や処理に戸惑うこともありました。年々増える自然災害や、効果的な情報処理が必要とされる状況もあることから、普段の業務の中でもこういったICTを取り入れて使い慣れておくことも大切と感じました。

— 今後の運営支援に活かして

いきいたいことを教えてください。

秋山 我々のような災害VCの支援者は、言い換えると「お節介する人」だと思っんです。ここで言うお節介は、「節度ある介入」ができる人。被災地では、本人やそのご家族が被災しながらも災害VCを立ち上げ、運営に尽力されているスタッフがいっぱいいるので、その方々のために、我々は新たに派遣されてきた仲間としてしっかりと信頼関係を築き、わずかな時間の中でも頼ってもらえることが大事だと思っています。今後新たに別の地域、あるいは私たちの町でも災害が発生し災害VCを開設する可能性があります。そんな時、私のような支援経験者としての役割は、被災地や災害VCの仲間のためにこれまで積み重ねてきた知識やノウハウを、節度を持って提供し続けることだと思っています。

田中 今回の派遣で全国の社協職員の方々と知り合うことができました。ここ



12月の雨や雪が降ったり止んだりする中で、空にかかった大きな虹。被災者も派遣された職員も皆で空を見上げ、笑顔になった瞬間。

で得た繋がりを大切に、困った時には互いに助け合っていけるような関係性を日頃から築いていけたらと思っています。

佐々木 いつどこで起こるか分からない災害に対して自分に何ができるのかというのを、この一週間の派遣を通して感じました。自分が学んできたことを天草市社協内で共有し、社協全体で取り組んでいきたいです。また、天草市社協では災害VC設置訓練を行うので、その際にも自分の経験や学びを伝えていきたいです。

森 派遣前にICTツールを活用した災害VC運営については、情報を得ていましたが、現地に赴いて実際に聞いてみると、情報の管理がとても詳細で分かりやすいと感じました。効率の良いICT活用の経験は、今後の運営支援でも活かしていけると思います。同じ被災をした経験のある者として、末長く支援をしていけるように動いていきたいです。

ICT活用やブロック間の連携：
今後の派遣へ繋げる振り返り

令和6年能登半島地震において派遣された、県社協・市町村社協の職員による振り返りの会を、令和7年1月29日に実施しました。今回の派遣先は九州からは遠方となり、さらに活動先の珠洲市は金沢市から車で約3時間の距離と移動に時間がかかることや、宿泊先では派遣職員が共同生活を送るなど、近年の被災地支援では見られなかった事例もありました。一方で、ZOOMやLINEWORKSを活用した引き継ぎや情報共有等は、派遣前・派遣後の活動をスムーズに効率良く進められた点でも大きな特徴と言えます。振り返りの会では、今回の被災地支援を通して感じた課題を共有し、改善策を探る全体協議を実施。今後熊本県での災害発生時や、他県の支援に活かしていくため、様々な意見が交わされました。

県社協・市町村社協職員派遣の実績

- 派遣期間：令和6年4月12日～12月10日（内、18クール）
- 派遣先：珠洲市災害ボランティアセンター
- 派遣職員数：49名
- 活動内容：ニーズ班／オリエンテーション班・マッチング班／資機材班／現地調査班



振り返りの会全体協議の様子

● 全体協議

● ICTツールの活用

オンラインでの事前打ち合わせや引き継ぎは、派遣前の不安を軽減させ、様々な準備もできるのでも参考になった。日々道路状況が変わる中で、最新の通行可能な道が分かるのは、現地調査の際にとっても助かった。

情報がデータ化されているので、過去のニーズ票や資料を探す時間や、オリマチ班につなげる時間が短縮できたので良かった。

今後災害VCの運営には欠かせない。ICTを活用した災害VCの設置訓練が県内で開催される場合は見学したいので、情報を共有してほしい。

● 現地への移動、宿泊面

現地への移動前に水害が起きて新幹線が止まり、集合時間間に合わないのではないかと不安だった。LINEWORKSのグループチャットで情報共有や指示があり、無事に金沢に到着した時はほっとした。

宿泊先のロッジでベッドの数が足りず、マットレスだけを敷いて寝泊まりした。仕方がないことではあるがすごくきつかった。

金沢までのルートはいくつかあるため、今回はその人にとってより良い選択肢を選んでも

らった。被災地が遠方の場合、熊本から一緒に行く方がいいか等、意見を聞きたい。宿泊先については、今後九州ブロック内での調整はもちろん、他ブロックとも連携して調整できるように検討していきたい（県社協）。

● 社協職員の派遣経験の有無

今回派遣調整を行う際に、経験者と未経験者が同じクールになるように意識してメンバーを組んだ。他県では未経験者ばかりというパターンもあったが、今後を見据えて経験者と未経験者がセットとなるような体制を九州で統一していけたら（県社協）

活動時にあえて他県の未経験の職員とペアを組んだ。自分のノウハウを伝えるとともに、他県の職員との交流も大切にしたい。

職員の家庭の事情などにより、なかなか県外派遣へ職員を出せない社協もある。1人でも多くの職員に被災地支援の経験をしてもらえると、社協のスキルアップにも繋がると思う。

今回のような振り返りの会や県VCの研修を活用するなどして、被災地支援の理解を深めながら、職員を出しやすい体制などを考えていきたい（県社協）。

NITORI BUSINESS

ニトリの法人様向け事業
福岡 ショールーム

【TEL:092-643-6336】
ニトリゆめタウン博多店3F
福岡県福岡市博多区千代6丁目2-23

施設向け家具も「お、ねだん以上。」

お見積りいたします。お近くのショールームまでご連絡ください。



オフィス



共用空間



居室空間

お見積り無料

施設全体のコーディネート提案も承ります

ニトリ ビジネス

検索



ニトリの法人事業
ホームページに
納品事例が多数
ございます。

熊本DWAT（熊本県社会福祉法人経営者協議会災害派遣福祉チーム）は、令和6年1月13日～3月31日の期間、延べ51名を派遣。志賀町の避難所や金沢市の1.5次避難所での支援を実施しました。先遣隊として現地を視察し、派遣調整等を行なった熊本DWATの木村さんにお話を聞きました。



熊本DWAT
本部
木村 准治さん

初めての県外派遣で感じた 支援ニーズやすみ分けの難しさ

能登半島地震発生直後より現地の情報収集を行なってきた熊本DWATは、令和6年1月10日に先遣隊2名を派遣し、金沢市の1.5次避難所や志賀町、七尾市の避難所を回り、安全確認や活動拠点の調査を行いました。1月13日から職員を派遣し、志賀町の避難所では段ボールベッドやパーテーション配置などの環境整備、感染症対策や感染予防のための生活環境、導線の確保を行い、被災者のニーズ調査や相談支援活動を実施。9日間（前後1日は引き継ぎ）を1クールとし、1クール5名を継続的に派遣しました。「熊本地震

や令和2年の豪雨災害を経験し、できるだけ業務の安定的な継続ができるよう、活動に7日間費やせるように設定しました。派遣される人が少しでも不安を解消できるように、毎週木曜の午後6時から現地と本部とをオンラインで繋ぎ、現地の状況報告や派遣後のタイムスケジュール、業務内容を共有する機会を設けました。派遣されて帰ってきた人も参加できるので、その後の支援の状況を知ることができる利点もありました」。

熊本DWATの母体は、熊本県社会福祉法人経営者協議会（以下、県経営協）。会員は社会福祉施設を経営する社会福祉法人であるため、様々な専門職が揃う強みを活かした活動を行なっています。

今回の能登半島地震では、社会福祉士、看護師、介護福祉士、理学療法士、サービス管理責任者、生活支援員、介護支援専門員といった多様な専門知識を持つ51名が派遣されました。しかし、被災地へ赴き要請された活動は、ケアはせずにソーシャルワークだけをする内容でした。「現地のニーズに合わせた支援をすることはもちろんですが、専門性を活かさない場面が多いことに、派遣者のもどかしさやストレスも大きかったように感じます」と振り返ります。金沢市の1.5次避難所でも、先に入っていた団体がアセスメントやケ



能登半島地震では、段ボールベッドや仕切りなどの組み立てをして生活環境を整えたり、1.5次避難所で全国から派遣された介護スタッフの受付対応等を行なった。

令和2年豪雨災害で実践した 専門職種を活かした支援活動

アを担っていたため、熊本DWATは全国から派遣された介護職員の受付対応や物品の管理に従事。「熊本DWATとしては今回初めての県外派遣ということで、他団体との調整が非常に難しい面もありました。現地の状況に合わせた支援を行うことなど、とてもいい経験になったと思っています」。

熊本DWATの成り立ちのきっかけは、平成28年熊本地震。県経営協の役員が集まり、全国から送られてきた支援物資の供給体制を構築したところから始まります。「当時、福祉避難所の開

熊本DWAT (Disaster Welfare Assistance Team)

平成28年熊本地震・令和2年7月豪雨を契機に、熊本DWATを結成。主に福祉避難所の立ち上げから運営までを支援し、避難者の行先調整を行います。活動時はケアチームとソーシャルワークチームを組織。ケアチームは食事やトイレ、入浴の介助等の生活支援、必要な生活環境整備を実施し、ソーシャルワークチームは避難者の住宅、施設復帰に向けた生活再建を支援します。社会福祉法人を会員としているため、介護福祉士や社会福祉士、理学療法士、サービス管理責任者、生活支援員など多様な専門職を有しています。

- 登録者数 122名（令和7年3月時点）
- 事務局 熊本県社会福祉法人経営者協議会
- 協力法人 熊本県社会福祉法人経営者協議会加盟の28法人



令和2年7月豪雨の際には、福祉避難所の開設から運営を実施。ケアチームとソーシャルワークチームに分かれ、避難者のケア、ニーズの把握や行先調整等を実施した。

設を経験し、災害時における福祉の連携の重要性を痛感しました。令和2年7月豪雨の際はコロナ禍に入った頃で、県外からの派遣受け入れができない状況であったため、熊本県が一丸となって取り組む体制を構築するべく、熊本DWA Tを結成し、41法人141名が支援にあたりました」。

近隣の社会福祉法人の状況や一般避難所の現地調査等を行い、他団体の動きを聞き取るなどしてさまざまな要因や条件を勘案し、福祉避難所開設場所を選定。ケアチームは福祉避難所での配慮者の食事提供や入浴、排泄の介助、コミュニケーションを通じたアクセスメントなどを実施しました。同時にソーシャルワークチームは、避難している人たちの行先調整や、必要に応じて他団体や行政、企業との連携調査を行いました。

DWA Tの活動の明確化が被災地の受援力強化に繋がる

「避難生活でのストレスや食事、身体活動の低下による病気の発症、関連死などに繋がらないよう、発災後は医療的な支援だけではなく、早期に福祉的支援ができる体制構築が必要になります」と力を込めます。

精神的な支援活動を通して表出する多くの課題。その要因の一つに、「全国のDWA T自体の知名度が低く、災害時にDWA Tが何をやる団体なのか、自治体や他団体に知られていない」という現状が挙げられます。「例えば熊本DWA Tは、令和2年の豪雨災害から福祉避難所や避難者の行先調整をメインの活動としています。そのことを加盟法人に周知することはもちろん、自治体や社協、地域住民や一般企業を巻き込んだ訓練をしていくことで、より広く周知することができそうです。熊本DWA Tの活動を全国的に知ってもらえることで、災害が起きた時に被災地が私たちに何をしてもらおうかというのが分かると思うんです。そのことが、災害時に円滑に支援を受け入れられる受援体制にも繋がっていくと思っています」。

令和6年11月に熊本県和水町で実施した熊本県大規模災害訓練では、玉名地区で震度7の地震が発生したと想定。災害対策本部と一般避難所、福祉避難所を設定し、行政、社協、保健師、



上／研修では『SgSE(スグセ)』を活用し、災害時の避難者支援や支援団体の連携について机上で学びを深める。下／和水町で実施した熊本県大規模災害訓練では、避難者へのニーズ調査など具体的な動きも含めて実施。地元テレビ局でも大きく報道された。

ソーシャルワークチーム、ケアチーム、学生チームなどとオンラインで情報を共有するなど、具体的な訓練を行いました。さらに、木村さんが開発した熊本式福祉避難所立上げシミュレーションゲーム『SgSE(スグセ)』を活用した研修を、青森県や埼玉県、高知県など県外でも実施し、好評を得ています。「日頃から全国の自治体や団体との関わりを持ち続けるとともに、災害時の連携協定なども検討していく必要があると思っています。そのためには、我々の活動を明確にし、有事の際に被災した自治体が熊本DWA Tを活用しやすくなるように体制を整えていきます」。

当社は気軽に立ち寄れる不動産会社です。お気軽にご連絡ください。

●不動産売買・不動産賃貸

●シェルター事業

…医療機関、福祉事業所等、多岐にわたる機関から入居の相談を受けています。また、住居を失った方の緊急救済としてシェルターを運営。

●訪問看護

…精神科に特化した訪問看護です。24時間365日対応。

●お問合せ先

まつお不動産株式会社

熊本市北区龍田8丁目17-40

TEL:096-245-7984

FAX:096-245-7954



熊本DCAT（熊本県災害派遣福祉チーム）は、令和6年2月29日～3月29日の期間、延べ17名を派遣し、輪島市内の一般避難所において要配慮者に対する福祉的支援を実施しました。熊本DCATの事務局を担う熊本県健康福祉政策課の尾方さんに、これまでの活動振り返るとともに派遣当時の状況について教えてもらいました。



熊本県 健康福祉部 健康福祉政策課
地域支え合い支援室 生活再建支援班
参事 尾方 良太郎さん

小さなことでも相談できる
被災者に寄り添う”なんでも屋”

熊本DCATが派遣された当時、輪島市内では2000人近くの住民が避難生活を送っていました。支援活動内容は主に要配慮者の状況確認や、避難所内の環境整備、避難所内において要配慮者やその家族がどこにいるのかを把握するマッピングなどを、輪島市内の複数の避難所を巡回しながら実施。「当時私は別の部署にいましたが、行政職員として輪島市に支援に入っていました。輪島市は、道路状況などで外部からの支援が遅れ、発災から2カ月が経ってもなお、多くの地域が発災当時のままの状況でした。また3月ながら吹雪く日もあり、厳しい天候も続いていました。そのような大変な現場で、要配慮者の方だけではなく、そのご家

族や周囲の方にも気を配りながら支援活動をしていただきました。派遣にご協力いただいた皆さんへの感謝の気持ちで一杯です」。

これまで熊本DCATは、平成28年熊本地震、令和2年7月豪雨においても、現地で被災者の様々なニーズや困りごとに寄り添い、活動してきました。「熊本DCATには要配慮者のケアをする専門職だけではなく、生活再建を手助けするソーシャルワークの専門職もいます。避難生活を送る方々が困りごとを抱え込まず、心身の安全を確保できるように支援できるのが熊本DCATの強みだと思います」。

その例として挙げられるのが、熊本地震や令和2年7月豪雨において、熊本DCATが一般避難所に設けた相談窓口「さしより相談処」。福祉相談の受け付けを目的としていましたが、実際には福祉に限らない行政手続きの相談や小さな悩みや困りごとなど、避難する方がどんなことでも尋ねられるよう「相談所」となっていました。「私は被災者に寄り添った”なんでも屋”とたとえているのですが、この取り組みによって信頼を得ることができましたし、『困ったらDCATに聞こう』という役割を得られたと思っています」。被災者の小さな困りごとにも耳を傾け支援する相談所の取り組みは、全国にも広がっています。



一般避難所では、要配慮者だけでなくそのご家族や周囲の方など、さまざまなニーズに幅広く対応。“さしより相談処”は、避難所で過ごす人たちにとってなんでも相談できる拠り所となった。（写真提供元：特定非営利活動法人コレクティブ）

福祉支援者の技術やノウハウが必要とする人に届くように

被災地に派遣されるメンバーは、さまざまな専門の知識や技術を持つ福祉のプロ。支援できる幅が大きい分、被災した現地のニーズによって活動できる内容に制限が生じてしまうミスマッチは、「どうしても起こってしまうことですし、課題でもあります」と尾方さんは振り返ります。さらに超高齢化社会の現代、災害時の福祉に関するニーズがますます高まっていくなか、必要な福祉支援の確保ができるかも大きな課題として挙げられます。「これらの課題に対し、国や全国社会福祉協議会との調整はもちろんですが、県関係課との情報共有や、熊本DWAATなど被災地で支援活動を行う福祉や保健、医療に関わる様々なチームとの連携も、平時から力を入れて取り組んでいきたいと考えています」。

熊本DCAT (Disaster Care Assistance Team)

平成24年12月に県内の7団体と協定を組み、熊本県災害派遣福祉チームとして発足。災害救助法が適用される大規模災害が発生した際に、被災地の派遣要請に応じて派遣されます。主に一般避難所において福祉ニーズの把握、福祉的トリアージ、災害時要配慮者へのケア、相談支援と生活支援等を行います。介護福祉士、社会福祉士、理学療法士、看護師など多様な資格を持つメンバーが登録しています。

- 登録者数 先遣隊164名／支援隊296名（令和6年4月時点）
- 事務局 熊本県健康福祉政策課
- 協定団体 熊本県老人福祉施設協議会／一般社団法人熊本県老人保健施設協会／熊本県療養病床・介護医療院連絡協議会／熊本県地域密着型サービス連絡会／熊本県身体障害児者施設協議会／熊本県知的障がい者施設協会／公益社団法人熊本県精神科協会

熊本県社会福祉士会

社会福祉士資格を有する会員が所属する職能団体。専門職としての資質向上を目的とした各種研修の実施や会員同士のネットワークづくりを通して、県民の福祉向上を目指しています。熊本県ハンセン病問題に関する相談受付、広報・啓発を行う「りんどう相談支援センター」や、私立中学・高校でのスクールソーシャルワーカー事業を展開するほか、成年後見や地域包括等様々な委員会活動をしています。災害時支援委員会は、熊本地震発災直前に設立に向けて動き出し、平成28年4月に発足しました。

- 会員数 約890名
内、災害時支援委員会への所属会員は14名・災害支援活動者登録数は約60名（令和7年2月時点）
- 事務局 一般社団法人 熊本県社会福祉士会

熊本県社会福祉士会（以下、県社士会）は、令和6年10月12日～18日の期間、会員2名を派遣。金沢市のみなし仮設住宅に入居する被災世帯への訪問活動を実施しました。派遣の調整等を行った災害時支援委員会委員長の遠山さんと、実際に現地で支援を行なった常務理事の緒方さんにお話を聞きました。



一般社団法人 熊本県社会福祉士会
災害時支援委員会 委員長 常務理事 事務局長
遠山 健吾さん 緒方 誠さん

”同じ被災者”として寄り添い
共感することが安心感へ繋がる

県社士会の災害時支援委員会では、毎年1回「災害支援活動者養成研修」を実施しています。実際に災害支援へ赴いた会員の報告や具体的なコミュニケーションを通じたグループワークなどを行い、災害支援時の心構えなどを学びます。この研修の受講は、県社士会の災害支援活動者登録に必須で、大規模災害等で日本社会福祉士会から支援協力要請があった場合に手を挙げられる体制をとっています。

「能登半島地震では、令和6年3月の1カ月間募金活動を行いました。それとは別に、平成28年熊本地震の際に石川県の社会福祉士会から寄付をいただいていたので、同じように県社士会から石川県社士会へ寄付を送りました。正式に九州・沖縄ブロックに派遣協力の話があったのが5月で、そこから委員会でも協議をして派遣調整を進めま

した」と遠山さん。要請された活動内容は、金沢市のみなし仮設住宅に居住する約2000世帯の訪問でした。さまざまな調整を経て会員の派遣を開始したのは、10月12日。能登半島北部で9月に発生した豪雨災害から、まだ日が経たない頃でした。

実際に訪問活動を行なった緒方さんは「訪問させてもらった被災世帯の方々は、豪雨の被害が大きい奥能登出身の方も多く、雨をきっかけに『家の修理は諦めた』『もう地元には帰らない決心がついた』と話される方もいらっしゃいました。お気持ちを聞くことしかできませんでしたが、私が熊本から来たことを知ると、同じ被災を経験した者として気軽に話してくださる印象を受けました」。

実際に熊本地震の際には、地元である益城町で支援活動に従事していた緒方さん。能登と同じ地震、水害と大きな災害に見舞われた熊本の復興の現状を伝えながら、「気長にいきましよう」と声をかけ、被災者の気持ちに寄り添いました。

災害の現場でも発揮される 社会福祉士の支援力

熊本地震と令和2年7月豪雨を経験した熊本。熊本地震からは9年、豪雨からは5年が経とうとしています。



金沢市みなし仮設住宅への訪問の様子。2人1組で、1日12～13件の訪問活動を実施。

「大きな災害が起こるたびに、社会福祉士の派遣体制にも変化があります。災害は起きないに越したことはありませんが、起きた時には可能な限り被災地での支援に参加すると、最新の支援体制に触れることができる。そうすると、今後も、また熊本で災害が起きた時にも活かしていくことができます。県社士会として、災害時の要請があった際には、『支援に行きます』と多くの会員に手を挙げてもらえる体制を整えていきたいですね」と遠山さん。

そのために重要なのは、まず社会福祉士自身が災害を自分ごととして捉えること。「普段、職場での業務に従事していると忘れてしまいがちですが、社会福祉士は本来いろんな場面で活躍することが出来る専門職です。そのことを会員が再認識することはもちろん、所属する職場や上司の理解も得られるよう、働きかけていく必要があります」と緒方さんも続けます。現在、平時から取り組めることとして災害に関する研修を年に3回実施。他の職能団体との連携を進めるなどして、より多くの会員が有事の時に支援に参加しやすい環境整備に力を入れています。



令和6年10月に開催された『ほーさいこくたい2024 in 熊本』では、能登半島地震の支援活動の様子もパネル展示で伝えた。「社会福祉士の活動に興味を持ってくれた高校生もいました」と遠山さん。

公式アカウントで情報配信中！

今すぐ
チェック！

県社協では各種 SNS を活用して、社協活動、ボランティア活動、各種助成金、就職・キャリア支援等の情報について配信しています。

YouTube



就職・
キャリア支援



Facebook



社協活動・
県社協事業



ボランティア・
各種助成金



Instagram



就職・
キャリア支援



LINE



社協活動・
県社協事業



就職・
キャリア支援



県社協への寄附御礼

社会福祉事業推進のためにと、多額のご寄附をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。ご芳志に沿うよう、今後とも社会福祉事業の推進に努めて参ります。

受付〈令和6年10月1日～令和7年3月31日〉※順不同

- HIGOパイロットクラブ 様
- 株式会社テレビ熊本 様
- 一般社団法人熊本県庁友会 様
- 東京エレクトロン九州株式会社 様

寄附のお願い

熊本県社会福祉協議会では、地域福祉の推進に必要な財源として、本会の活動・事業に賛同し応援して下さる全国の皆様や企業・団体様からの寄附金を受け付けております。ご寄附いただきました浄財は、本会が実施する事業や県内の福祉団体、ボランティア団体等への支援に活用させていただきます。この機会に、社会貢献としてご一考くだされば幸いです。

自動車共済MAP 福祉にかかわる皆様だけのお得な割引制度

(任意保険)

共済制度のメリット

- 非営利の共済制度
- 節約型のお得な掛金
- 早くて親切な事故処理
- 他保険会社等からの切替でも安心
 - ノンフリート等級(無事故割引等)、フリート優良割引などはそのまま引き継ぎます。

①福祉車両割引 3%

- 消費税非課税措置の対象となる福祉車両の契約の場合。

③福祉施設割引 10%

- 社会福祉施設が所有・使用する自動車の契約の場合。

②障害者割引 10%

- ご本人(記名被共済者)、配偶者、同居のご親族のどなたかが障害者の認定を受けているご家庭の契約の場合。

④福祉施設職員割引 5%

- 社会福祉施設に勤務する役員・従業員の契約の場合。



安心、信頼、ゆたかな未来へ。



熊本県火災共済協同組合

本部

熊本市中央区安政町3番13号(熊本県商工会館5F)
TEL:096-325-3411

お問合せ、お申込みは…

(社福) 熊本県社会福祉協議会
TEL:096-324-5454

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり） 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額	4,000円		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		
年間保険料		350円	500円	

商品パンフレットは
こちらから



(ふくしの保険
ホームページ)

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
〈保険会社〉

TEL:03(3349)5137

受付時間：平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667

受付時間：平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

ソウェルクラブ

(福利厚生センター) **ご加入のおすすめ**

新規会員 募集中!

会員数 約270,000人/

職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ ●電話健康相談

職員の余暇活用のために

- 指定保養所…休暇村、KKR、グリーンピア、ダイワロイヤルホテルズ
- 会員制リゾート施設…ラフォーレ倶楽部 セラヴィリゾート泉郷
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク ●国内・海外旅行
- レンタカー ●カルチャースクール等

職員の生活サポートのために

- 住宅ローン ●特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険・傷害保険
- 小売店、引越サービス、文具・消耗品、書籍等

職員の慶事のお祝い

- 結婚お祝い品贈呈 ●出産お祝い品贈呈
- 入学お祝い品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈
- 長期勤続者退職慰労記念品贈呈

各種情報提供

- 会員情報誌 ●ホームページ

地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)
- 地域開発メニュー

職員の資質向上のために

- 資格取得記念品贈呈 ●接遇講習会
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- メンタルヘルス講習会
- OJTスキルアップ講習会
- Disneyアカデミー
- コンプライアンス講習
- e-ラーニング
- 〔 Excel、Word、PowerPoint、コンプライアンス、メンタルヘルス 〕

職員の万が一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

国内外20万件以上の施設やサービスを会員価格で利用できる

ソウェルクラブ “クラブオフ”

加入要件

- ・契約対象者…社会福祉事業又は介護保険事業(※)を経営する者
- ・加入対象事業…社会福祉事業又は介護保険事業(※)
- ・加入対象者…上記事業に従事する役職員全員(非常勤職員含む)

※対象事業の詳細についてはお問い合わせください。

掛金

- ・第1種会員(常勤職員向け) …… 毎年度1万円
- ・第2種会員(非常勤職員向け) … 毎年度5千円

※非常勤職員が第1種に入会することもできます。

※第2種会員は、利用できるサービスが一部限定されます。

加入申し込み、お問い合わせは、**TEL 0120-292-711**
フリーダイヤル **FAX 0120-292-722**
<https://www.sowel.or.jp/>
社会福祉法人 福利厚生センター
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1
NBF小川町ビルディング

経営相談 をご活用ください

相談は無料です

毎月1回(定例日)、専門の相談員が社会福祉法人や社会福祉施設からの経営相談に応じています。また、緊急な場合は、電話やメールでの迅速な対応も可能です。ぜひご活用ください。

来所相談日 (※予約が必要です)

- 社会保険労務士 第1月曜日 午後1時30分～
- 公認会計士 第2火曜日 午後1時～
- 弁護士 第3木曜日 午後1時～

お問い合わせ | 社会福祉法人経営相談室
TEL 096-324-5465 (直通)
FAX 096-355-5440

地域福祉権利擁護事業で、暮らしの安心をお手伝い

ご利用できる方

認知症・知的障がい・精神障がいなどにより、判断能力が低下しておられる方で、日常生活に不安のある方などです。

サービスの主な内容

- 福祉サービスが安心して利用できるようにお手伝いします
- 毎日の暮らしに欠かせないお金の出し入れをお手伝いします。
- 大切な通帳・印かん・証書などを、安全な場所でお預かりします。

利用料

1回1時間あたり1,200円程度です。(お住まいの市町村によって異なります)

お問い合わせ | 地域福祉権利擁護センター
TEL 096-324-5474 (直通)
※またはお住まいの市町村社会福祉協議会まで

福祉サービスに関する苦情など お気軽にご相談ください。

福祉サービスに関する苦情や相談は、事業所内にある苦情受付窓口で受け付けています。しかし、解決できなかったり、直接、言いにくい場合は、「熊本県運営適正化委員会」へお気軽にご相談ください。利用者本人や家族、代理の方でも相談できます。

相談は無料です・秘密は守ります 午前9時～午後5時まで(土・日・祝日は除く)

お問い合わせ | 熊本県運営適正化委員会
TEL 096-324-5471 (専用)
FAX 096-355-5440

社会を支える福祉の仕事のお手伝い



福祉人材 無料職業紹介所

社会福祉法人 熊本県社会福祉協議会
熊本県福祉人材・研修センター TEL 096-322-8077
〒860-0842 熊本市中央区南千反畑町3-7 熊本県総合福祉センター4階 開所時間 平日9時～17時

ふれあいネットワーク